

（一社）港湾技術コンサルタンツ協会 令和4年度「港湾の現状に関する説明会」を実施

（一社）港湾技術コンサルタンツ協会（港コン協：柴木秀之会長、会員数：39社）は、12月20日（火）に、国土交通省港湾局、国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 港湾空港技術研究所から講師を招請し、令和4年度「港湾の現状に関する説明会」を実施しました。

「港湾の現状に関する説明会」は、例年12月に、港湾の整備や施策等に関する最新情報を港コン協会員に提供することを目的に開催されており、今年度は昨年度に引き続き、Web併用での開催となった。Web 参加者を含めて、会員企業から約80名が聴講しました。

港コン協の大津光孝企画委員長の開会挨拶に続き、港湾局技術企画課の浅見尚史建設企画室長から、「港湾行政の最近の動向について」と題して、港湾関係予算、港湾法改正の概要、I-construction推進やプレキャスト工法導入促進など直轄事業の実施に向けた取り組みなど最新の情報が提供されました。

後半は、港湾空港技術研究所 港湾空港生産性向上技術センター 松本さゆり副センター長が研究所から、「港湾における音響技術～Red Octoberを追いかけて～」と題して、海洋音響学の歴史、海洋を可視化する技術、3D音響ビデオカメラの開発や浚渫工への適用、マルチビームデータクラウドの開発など調査研究開発の最新の情報を提供されました。

各々の講演後質疑応答が実施され、浅見講師とは、港湾緑地の民活と質の向上、CNPの今後の展開、また松本講師とは、BIM/CIMとの連携、音響ビデオカメラの標準化等に関し活発な意見交換がなされました。



写真は左から、講演する港湾局技術企画課の浅見建設企画室長、会場風景

以上

文責 港コン協 企画委員 吉田秀樹